

H 30年 11月

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況		自己評価			
				できる	ほぼ できる	できない ことが多い	全く できない		
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]									
(1) 理念の明確化									
①	サービスの 特徴を踏ま えた理念の 明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ● 社の理念を掲げている。 ● サポートセンター独自の年間目標がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 理念をもとに実効性を高めてください。
(2) 適切な人材の育成									
①	専門技術の 向上のため の取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ● 認識するとともに、日常目に触れることのできるよう事務所内に掲示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新人職員にも、周知できるように、徹底して下さい。
		3	運営者は、専門技術（アセスメント、随時対応時の能力など）の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受けられる機会を確保している	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強会への参加を促して実行している（年間12回以上あり） ● アセスメントは、定期的な更新している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強会・研修などで技術の向上を臨みます。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	実施状況				自己評価		外部評価コメント
				できている	ほぼできている	できていないと多い	全くできていない	コメント		
				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			
②	介護職・看護職の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	<input type="radio"/>					<ul style="list-style-type: none"> ● 毎日の申し送りや、常に情報共有の機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報共有が、大切な情報共有が、大切だと思いますので、引き続きお願いします。
(3) 適切な組織体制の構築										
①	組織やネットワークの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	<input type="radio"/>					<ul style="list-style-type: none"> ● 有資格者・経歴年数を加味したシフト体制となっている。 	
②	介護・医療連携推進会議で得られた適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> ● 助言・要望を活かした営業活動を常に実行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 営業活動と並行して在宅の利用者を受け入れるための人員を整備してください。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				実施状況	自己評価	自己評価	自己評価		
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備									
①	利用者等の状況に係る時の情報更新・共有の環境のための整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で) 必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				<ul style="list-style-type: none"> 家族・メディア関係者への報告と相談を綿密にヒアリングしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の取り扱いには十分注意して下さい。
(5) 安全管理の徹底									
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等ため、事業所において具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	○				<ul style="list-style-type: none"> 交通安全の研修に参加している。 夜間のドライブバックを監視カメラを設置している。 災害時の対応、プロトコルを提示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 想定外の自然災害などの可能性も考慮して、対策を講じて下さい。
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護について具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	○				<ul style="list-style-type: none"> 守秘義務の遵守と保護に注意を払っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報・秘密保持に引き続き努めて下さい。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
				実施状況					
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない		

II 過程評価 (Process)

1. 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成

①	利用者等の暮らし全体に着眼した、介護・看護両面からのアセスメント実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	○					<ul style="list-style-type: none"> 介護計画に於いて、サービスを行うアセスメントは常に更新しサービスの変更・追加をされている 	<ul style="list-style-type: none"> ケアマネツター・家族とも相談検討しより良いサービスを望みます。
②	利用者の心のやの足の継続した「未来志向型」の計画の作成	1	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	○					<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族の意向を十分に踏まえたサービスが出来るよう計画を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 医療・リハビリ部門からの協力が不可欠かと思われ

自己評価

実施状況

全できない
できないことが多い
ほぼできている
できている

コメント

外部評価
コメント

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント
				全できない	できないことが多い	ほぼできている	できている		
		14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・重度化が予想される場合は家族・ケアマネジャー・看護・関係部署との担当者会議を行い計画の再構築を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者は、一日でも長く在宅生活と望まれる方が多いです。

(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し

①	計画上のサービス提供日時に限られ、必要に応じて定期巡回・随時対応の提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている					<ul style="list-style-type: none"> ・急変時、体調不良時は、柔軟な随時サービスを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟な対応が、利用者にとって、大切と考えます。
②	継続したモニタリングなどの状況把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の適宜反映が行われている					<ul style="list-style-type: none"> ・月間を通してのモニタリングでサービスの変更・追加を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の観察と、記録・スタッフ間の情報共有が、大切と思っております。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	実施状況			自己評価		コメント	外部評価コメント
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない			
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供										
①	介護職と看護職の相互性を柔軟にサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	<input type="radio"/>					情報共有し、サービスを行っている。	看護と連携するうえで、どのような工夫をしていますか。具体的に示してください。
②	看護職によるサービスに関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	<input type="radio"/>					行われている。	例えば、状態観察と把握により看護に皮膚トラブルのある利用者の処置等を判断して適切な実施後、介護側は適した体位交換・清潔保持を行う
(4) 利用者等との情報及び意識の共有										
①	利用者等に該当の特定の趣味的な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスの「利用者の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスのあり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	<input type="radio"/>					計画書の更新時には情報提供と説明を行い、了解のサインをもらっている。	定期的な訪問サービスと随時行う訪問サービスの違いを利用者に説明していますか。 利用者本人・家族に担当者会議等で話している。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況	できている	ほぼできている	できていないことが多い			全くできていない
②	利用者等と目標の共有計画の適切な情報提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	行なっている。	利用者へ、必要な説明を行って下さい。
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	家族・ケアマネツキムン報告と相談は常時行っている。	
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント										
(1) 共同ケアマネジメントの実践										
①	利用者等の状況の変化について、ケアマネの適切な情報共有プログラムの提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービスの提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	常時行い、サービスの変更追加は適宜行っている。	ケアマネへの報告は今後も希密に行って下さい。
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案（地域内のケアマネ・インフォーマルサービスの活用等を含む）が行われている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	地域イベントの手助けや支援などを行っている。	

タイト ル 番号	タイトル	項目 番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況	でき ている	ほぼ でき ている	でき ない こと 多い			全く でき ない
②	定期的なア スメント標 結の達成す 等に関する、 多職種の情 報提供	24	サービ担当 者会議等の 場を通じて、 利用者の達 成状況につ いて、多職 種への情報 提供が行わ れている	○					定期的なア スメント標 結の達成す 等に関する、 多職種の情 報提供が行 われている。	
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献										
①	在宅生活の 継続に必要 となる、利 用者等に対 するサポー トの、多職 種による検 討	25	利用者の在 宅生活の継 続に必要な 要素となる （保険外サ ービス、イ ンフオーマ ション等の 活用を含む ）について 、必要に応 じて多職種 による検討 が行われて いる（※任 意評価項目 ）	○					関係部署との連携を 図っている。	具体的な活動について 教えてください。
		26	病院・施設 への入院・ 入所、及び 病院・施設 からの退院 ・退所の際 などに、切 れ目のない 介護・看護 サービスを 提供するた めに、必要 に応じて多 職種による 検討や情報 の共有が行 われている （※任意評 価項目）	○					退院時カンファレンスに 参加し、情報共有に 努めている。退院日 より円滑にサービスが 出来るよう検討してい る。	病医脱・訪問看護 リハビリ等とも積極 的に意見交換していか る。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価 コメント	
				実施状況	できないことが多い	全くない	できる			ほぼできる
②	多職種による役割分担及び連携の検討と、必要に応じて関係者の積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要なとなる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)	○					・往診医・訪問看護薬師等と連携を図り相談を行っている、	・薬剤や処置の変更、利用者の状態変化に対応したきめ細やかなサービス提供ができていいると思われ
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画										
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案										
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの効果等、地域に極的発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○					・構成員・地域病院に推進会議の議事録を郵送・サポート新聞の送付を行っている。	・わかり易く書いて良いと思います。
		29	当該サービスの概要や効果等についての正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	○					・サ高住見学者に、パンフレットを提示し説明を行っている。	敷地内にあるサ高住の入居者への対応だけではなくは地域への発信にないでしようか。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価					コメント	外部評価コメント
				実施状況						
				できている	ほぼできている	できていないことが多い	全くできていない			
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画										
①	行政の地域シミュレーション構築方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	<input type="radio"/>						
②	サービス提供者における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	<input type="radio"/>					今後、地域に向けた働きかけを行っていきたいと考えている。	
③	安心して暮らせるように向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービス等の開発・活用等）が行われている（※任意評価項目）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				<ul style="list-style-type: none"> 今後、外部に向けた働きかけを行っていきたい。 	地域に向けた働きかけについて、もう一歩踏み込んだ方法での対応を望みます。

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
				実施状況	できないことが多い	全くない			
Ⅲ 結果評価 (Outcome)									
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	○				・各自の計画目標はほぼ達成できていると考える。	
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	○				・将来的にも安心した在宅生活ができていくと思う。	・より良いサービスが出来ることを望みます。